

雪 と 春

1 雪

先日の湘現会定例会は、この10数年来見たことがないような降雪や積雪に見舞われました。

そこで、一句

「降る雪や昭和も遠くなりける」

ネタ歌「降る雪や明治は遠くなりける」(中村草田男)のパロディー

2 春待ちわびる

「冬来たりなば春遠からじ」(「If Winter comes can Spring be far behind?」という英国の詩人シェリーの作詩の訳)と言いますが、この冬は暖冬かと思いきや、ことのほか寒く、たき火、こたつ、湯たんぽ、しもやけ、すきま風などはるか昔のことを思い出しました。「春待ちわびる」という気持ちがよく分かりました。

そこで、「春」が出てくる和歌や詩、歌の文句を調べてみました。皆さんがよくご存知の文言が多いと思いますが、その多さに改めて驚きました。

(1) 和歌

石走る(いわばしる)垂水の上のさわらびの 萌え出ずる春になりけるかも
志貴皇子(万葉集)

袖ひぢて結びし水のおれるを 春立つけふの風やとくらん
紀貫之(古今和歌集)

久かたの光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらん
紀友則(古今和歌集・百人一首)

東風(こち)吹かば匂ひ起こせよ梅の花 あるじなしとて春を忘るな
菅原道真(拾遺和歌集)

(2) 随筆

春はあけぼの やうやう白く なりゆく山ぎは 少し明かりて 紫立ちたる雲の
細くたなびきたる・・・ 清少納言(枕草紙)

(3) 俳句

春の海ひねもすのたりのたりかな 蕪村

(4) 詩

どこかで春が生まれてる どこかで水が流れ出す どこかで芽の出る音がする
どこかで雲雀が啼いている 百田宗次

(5) 唱歌・童謡

春よ来い早く来い 歩き始めたみいちゃんが 赤い花緒のじょじょはいて
おんもへ出たいと待っている 相馬御風

春の小川はさらさら行くよ 岸のすみれやれんげの花も 姿優しく色美しく
咲けよ咲けよとささやきながら 高野辰之

春になればしがこもとけて どじょこだのふなっこだの 夜が明けたと思うべな
(わらべ歌)

春のうららの隅田川 上り下りの舟人が 襦のしずくも花と散る
眺めを何にたとうべき 武島羽衣

春高樓の花の宴 めぐる盃影さして 千代の松が枝分け出でし
昔の光今いずこ 土井晩翠

(6) 最近の歌謡曲

春色の汽車に乗って 海に連れて行って
煙草の匂いのシャツに そっと寄り添うから
松本隆 (松田聖子の歌 赤いスイトピーの一節)

北の町ではもう悲しみを暖炉で燃やし始めているらしい・・・
襟裳の春は何もない春です 吉田拓郎 (森進一の歌 襟裳岬の一節)

雪が溶けて川となって流れて行きます・・・
もうすぐ春ですね ちょっと気取ってみませんか
樋口雄右 (キャンディーズの歌 春一番の一節)

(7) 漢詩

国破山河在 城春草木深・・・
(国破れて山河在り 城春にして草木深し)
杜甫 (春望の一節)

春宵一刻值千金・・・ 蘇東は

(8) 春が付く熟語等

立春 春分 (季節の熟語は、その他にも多い。) 春風 春霞 春雪 春宵 春眠
春泥 青春 回春 春秋 春先き 春告魚 思春期 春うらら (以上)